

0-8 石村大輔・高橋直也・堤 浩之・遠田晋次

主断層と副断層の活動の同時性：2016年熊本地震断層上での古地震調査を例にして

<選定理由>

本研究は、熊本地震の再現周期をどう考えるのかという大事な研究として位置付けられ、トレンチ調査を通じて得られた知見の、系統的、科学的な分析を行ない、副断層の運動像の絞り込みに成功したという観点から「目的に対する結果到達度」の高い発表であったと評価された。

トレンチの掘られた場所のローカルな事情が反映されていないかなどの検討、も含め今後の研究展開が望まれるが、イベント認定の重要な問題に言及しており、その問題解決のアプローチとなる研究成果を挙げることができていると判断された。

発表では、成果を整理した多くの図面を用いて短時間に聴衆が理解できるように編集されており、工夫のあとが伺えた点も評価された。